

# 体育大会・スポーツ大会における個別支援に関する実践

首席：木下達夫

教諭：田中紀行

今回、学校での行事の見直しを行った。特に体育大会は、開催の時期や名称も変わり、生徒へのアプローチの方法も変わった。今回は、体育大会・スポーツ大会を軸に実践をスライドでまとめる。

## 体育大会・スポーツ大会における 個別支援に関する実践

教諭：田中紀行  
首席：木下達夫

## 生徒指導に関わる体育大会・スポーツ大会 に焦点を当てて実践の報告をまとめる

### ねらい

- ・スポーツ大会（6月：小中高合同）
  - 目的：小中高学部の垣根を越えて、児童生徒、教員が交流し、スポーツを楽しむ。
  - 競技：ポッチャ
  - チーム：小中高の縦割り（ただし1年目はコロナにより学級での対戦）
- ・体育大会（10月：競技は中学部のみ）
  - 目的：生徒自身の動きを競技と結びつけて、自分の力で結果を出すことができる
  - チーム：中学部内での縦割り

### 6月と10月の実施されるそれぞれの体育大会の位置づけについて

- ・春の体育大会は、学級集団や生徒会の組織づくり、あるいはオリエンテーションの意味が強くなる。一方で、秋の体育大会は、それまでに作り上げてきた組織や集団の力に依拠して、成果を発表する、表現する、発揮する場という意味が強くなる。どちらがよいというものではなく、生徒を育てるという意味ではどちらも同じであり、大切なのは年間の行事計画の中で、どのような性格をもたせるかということである。（神谷、2021）

→上記の内容と本校の体育大会における開催の時期により『ねらい』が異なることが合致

### 競技内容

①スポーツ大会  
・・・ポッチャ  
→生徒の個人因子に焦点を当てた支援を考える必要がある

②運動会  
・・・障害物競走など  
→生徒によって課題の設定がことなり環境因子と個人因子の両方の視点の支援を考える必要がある

The diagram illustrates the ICF model. At the top is '健康状態' (Health Status), which includes 'ICF国際生活機能分類' (ICF International Classification of Functioning, Disability and Health) and '健康・病状、等' (Health, condition, etc.). Below this are three boxes: '心身機能・身体構造' (Mental and physical functions, body structure), '活動' (Activity), and '参加' (Participation). Arrows indicate interactions between these boxes. Below the '活動' and '参加' boxes are '環境因子' (Environmental factors) and '個人因子' (Personal factors). The '個人因子' box is labeled '属性' (Attributes). A vertical box on the right is labeled '生活機能' (Life Functioning).

### ICFの考えの例

The flowchart starts with '健康状態' (Health Status) and '未熟児網膜症' (Retinopathy of Prematurity). It branches into '心身機能・身体構造' (Mental and physical functions, body structure) and '活動' (Activity). The '心身機能・身体構造' box lists: '視力 (右 0.05、左 0.02) (-2)', '視野 (-1)', 'コントラスト感度 (-2)', '視覚画像の鮮明さ (-2)', '認知覚 (図形と実物・物の性質性 <-2> -空間における位置 <-1>)', and '協応性 (両手) (-1)'. The '活動' box lists: '学年相応の学習、音楽が得意', '読まれた話から単独読書が可能', '友達と一緒に読書することは少ない', '教科書や紙書文字の読みの難しさ (-2)', '漢字の読み書きの難しさ (-2)', '図表・地図の読み取りの難しさ (-2)', '図形・グラフの学習の難しさ (-2)', '実験・観察の難しさ (-2)', '体育の活動の難しさ (-2)', and '校外学習への参加の難しさ (-2)'. Below these are '環境因子' (Environmental factors) and '個人因子' (Personal factors). The '環境因子' box lists: '合理的配慮 (拡大教科書、意見台、補助プリント、写真教材、ルーズ、体育の授業への配慮、校外学習時等での手引き、移動支援、昇降口入口近くの下駄箱の用意等)'. The '個人因子' box lists: '小4、女', '幼稚園卒業', '素直で明るい性格', '3歳からピアノ教室に通っている', '中学校卒業後専門学校入学を考えている', and '主体・主観'. A box at the bottom right lists: '特別な配慮 (認知学習プログラム、漢字学習プログラム)', '学力を身につけない', '下駄箱の位置を昇降口入口にしてほしい', and '主体・主観'.

## 練習時間の設定について

- 教員は授業だけでなく、教科外体育や課外体育における子どもの姿を総合的に把握して、一人ひとりの指導に当たっているはずである。例えば、夢中になって運動会のダンスに取り組んだ生徒が「最近では苦手だった運動や体育の授業を積極的に頑張っています」と述べることもある。このような実態に注目して、教科外体育のような経験が、体育授業に影響を及ぼしたのかを分析することが必要である。（体育科教育ハンドブックより）

→体育だけでなく、自立活動や学級活動の活用が不可欠

## 体育大会（10月開催）のA君の支援の場合

競技のねらい：帽子を探し、取る（障害物競走）

他教科の関連：  
自立活動、技術・家庭科、学年活動

環境因子：  
合理的配慮→写真教材  
教具の工夫（スイッチによる釣り竿を動かす）

個人因子：  
腕のリーチができる  
童謡が好き

手だて：棒スイッチを押して帽子を取るよう言葉かけや支援する

\*教員は生徒の環境因子・個人因子を全て把握して支援



## スポーツ大会（6月開催）のB君の支援の場合

競技のねらい：ポッチャ

他教科の関連：学年活動

環境因子：  
合理的配慮→ポッチャのルールに準ずる形にあわせる

個人因子：  
介助立位ができる  
上げ、下げができる

手だて：ランプの角度を支援する

\*教員は、ポッチャというルールの基生徒の個人因子に関することを中心に支援



## まとめ

- 体育大会の開催の時期によってねらいを見直し、学校行事を運営できた
- ICFを基に生徒の支援方法を考えることができた

## 参考資料

- 佐藤善人『子どもがやる気になる！！スポーツ指導』（学分社、2018）
- 前川久男『発達障害の理解と支援のためのアセスメント』（日本文化科学社、2013）
- 神谷拓『運動会指導の原理と実践』（大修館書店、2022）